

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102582		
法人名	医療法人 稲葉会		
事業所名	芥見グループホーム		
所在地	岐阜市岩田東3丁目277番地1		
自己評価作成日	平成30年9月20日	評価結果市町村受理日	平成30年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2170102582-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2170102582-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成30年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・平屋造りの2ユニットで、渡り廊下でつながっており、自由に行き来出来るゆったりとした雰囲気のあるホームです。</li> <li>・母体は芥見診療所です。先生の訪問診療もあり、医療との連携が整っています。</li> <li>・併設のデイサービスの行事へ参加し、入居前からの馴染みの関係の維持や、大浴場での入浴など楽しんで頂けるよう心掛けています。</li> <li>・近くのスーパーや、喫茶店へ行くなど外出支援を行い、住み慣れた場所で、地域の方々との関わりを持ちながら生活できるようにしています。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の周辺には、スーパーマーケットや薬局、飲食店等が立ち並び、便利な地域である。利用者は、住み慣れた地域の人の温かさに触れながら、穏やかに過ごすことが出来ている。職員は、利用者本位の支援に努め、利用者が安心して毎日を過ごせるよう、常に、話し合いながら取り組んでいる。また、リハビリを組み入れた体操やレクリエーションを行い、利用者の残存機能の維持に努めている。母体法人である診療所と密な医療連携により、利用者だけでなく、家族も安心して過ごすことができています。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、「利用者本位」「地域との交流」等の4項目を基本として掲げている。その意義を、職員会議の場で共有し、日々の支援の中で実践している。常に笑顔と優しい心で利用者に接し、穏やかな生活が送れるよう取り組んでいる。	理念は「利用者本位・やさしい気持ち・笑顔・地域との交流」とし、玄関や居間など、目の付きやすい場所に掲示している。また、理念を基本としたケアがきちんと出来ているかを、申し送りや職員会議で話し合い、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会員として、回覧版で地域の情報を把握している。事業所の夏祭りや、花火大会には近所の方に声をかけ招き、近隣の人たちや、商店とも、馴染みの関係を築いている。	自治会の回覧板で地域の行事情報を把握し、利用者も参加している。事業所の夏祭りや花火大会には近隣の住民を招待し、利用者の友人の参加も得られている。また、自治会の清掃活動や行事等に出掛け、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	予約のお問い合わせ時や、ホーム見学時に日常生活の対応を相談される時は今までの経験を活かし、様々なアドバイスを伝えるようにしています。認知症おでかけサポート訓練にも参加させて頂き、見守りの町づくりに参加しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、参加者が気軽に発言できるよう雰囲気作りに努め、利用者状況や活動内容を説明し、ヒヤリハット、事故事例等を報告している。参加者からの意見や提案は、サービスの向上に活かしている。	地元の住民、民生委員、家族が参加し、隔月に運営推進会議を開催している。報告や今後の予定、ヒヤリハット事例など、意見交換をしている。開催日には、利用者の様子を家族に見てもらう機会としているが、日程については、家族、行政の両方の参加が得られる方法を模索している。	運営推進会議には、家族の参加も得られている。行政の協力も得ながら、災害訓練を同日実施することで、より家族の理解と協力を得ることができると思われる。実現できることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者、または、地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席している。その際、事業所の実情を報告し、福祉全般の課題も話し合っている。出席時にはご助言を頂き質の向上に努力しています。	行政とは日常的に連携を密にし、情報の交換をしている。困難事例、介護保険の動向など指導を得ている。「ほっとメイトカフェ」の運営にも協力し、地域高齢者の憩いの場としての役割を担っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践しています。安全上、やむを得ない場合については、具体例を挙げ、職員間で話し合っている。玄関の防犯の為、夜間のみ施錠していますが、日中は施錠はしない為自由に出入り出来ます。解除中は安全な対応で見守りしています。	身体拘束をしないケアを実践し、弊害についても職員研修で学んでいる。また、拘束ゼロの委員会を設置し、定期的に委員会を開催しており、それらを、職員に周知徹底する為の会議も計画している。利用者の自由を最大限に受け入れながら、利用者本位の支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等で人権の尊重を全職員が把握できるように会議等で伝達しています。また、身体的のみではなく精神的虐待につながるような言葉等も注意しながらケアに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会を作り、内部研修や会議にて伝達する事で職員の理解や知識を身につけています。身元保証制度を利用されている方に関しては関係者と話し合いをしながら支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき、利用者様、家族様に詳しく説明をし疑問等に関し十分な説明、対応をすることで御理解を頂き同意を得ています。また、入居後も疑問などあった場合にはその都度、説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見等、サービス向上につながるように努力しています。電話などで連絡を取り話しやすい環境、雰囲気作り、家族様の面会時に要望等を聞き運営に反映させています。	利用者の意見や要望は、日常の会話の中から把握し、家族からは運営推進会議や面会時に聞いている。家族から、手すりの取り付け場所の要望や、外泊について質問があり、外出・外泊について分かりやすく説明をしている。ホーム通信でも、担当職員が利用者の状態を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員間での意見交換がしやすいような、話しやすい環境作りを心掛けています。職員会議では、気軽に意見や提案を発信できる場を設けています。働きやすい職場環境についても、話し合っています。	管理者は、職員と同じシフトで関わりながら、日常的に意見や要望を受け、備品の補充や不具合の改善等には、速やかに対応している。代表者も、利用者の往診の際に、職員の意見を聞きながら、働きやすい職場環境づくりに取り組み、職員の定着率につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の事情を配慮し働きやすい労働環境(残業時間の軽減、身体負担の軽減)を確保できるように工夫しています。また、得意な事、苦手な事を把握しその職員に合った係を決める等、意欲向上に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の立場や必要性に適した内部研修に積極的に参加し、会議や書面等で他職員への伝達、知識の共有を行い質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東部ケア会議に参加し、情報収集や意見交換を行っています。また、他事業所へ利用者様の紹介や訪問、運営に関する相談もしながらサービスへつながるような取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの見学や事前面接時に柔らかい雰囲気を作り相談や要望をお聞きしています。信頼を得られるよう、要望等ははっきり受け止めて、今までの生活環境を大切にしながら安心した生活が送れるように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様に家族様からの要望等をお聞きし信頼を得るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	予約時等に相談を受ける中で、どのようなサービスが適しているかを話し合い、支援を検討しています。法人内のデイサービスを利用してみえた方等、入居後も行事などに参加して頂き、今までの関係の継続を支援をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、掃除、その他、個々の利用者様の得意分野とする事をみつけ、共存し合う事で一体化を図り、常に感謝の気持ちや敬意を忘れず、支えあいながら生活できる関係作りを心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの生活に慣れない方は家族様に面会や電話の協力をして頂き、安心した生活が送れるように支援しています。また、行事に参加して頂き、家族様との絆を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会があります。またデイサービスの行事に出かけ、馴染みの関係を継続しています。家族の協力を得て、行きつけの喫茶店、買い物にも出かけています。	利用者の知人や友人が訪問の際には、ゆっくりと過ごすことができるよう配慮している。また、デイサービスの行事に参加したり、地域のサロンや喫茶店に出かけて、馴染みの人に会えるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を見ながら席を決めたり、できない事を助け合いながら生活しています。支え合うことで信頼関係を築き、毎日笑顔で過ごして頂けるような生活支援を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族様の相談等に応じ、その都度、対応しながら、お付き合いを大切にしています。馴染みや信頼関係が途切れないように心掛けています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の思いを把握しています。困難な人は、表情や動きを観察し、家族からも情報を得るようにしている。本人の選択や意思を尊重し、暮らしやすいよう工夫し、生活環境を整えています。	入居前のアセスメントで利用者の意向を把握し、入居後は、個別ケア、会話、表情等から思いを汲み取るよう努めている。知り得た内容を申し送りノートに記録し、職員間で共有している。個別外出も支援しながら、利用者一人ひとりの思いや希望を叶えられるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家族様からの生活歴や性格などの情報を取り入れ、全職員が把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を記録に残しサービスの経過等、全職員が利用者様に対して同じ対応ができるように努めています。また、利用者様の心身状態を把握し、個々に合った対応を心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、本人・家族の希望や意向を確認して作成しています。職員会議では、支援の経過と介護記録を検証し、関係者の意見を加えています。身体機能の維持と認知症の進行予防も計画に盛り込んでいます。	家族の訪問時に意向を確認したり、電話やメールでも連絡を取っている。サービス担当者会議は家族参加で行っているが、日程的に調整が困難な時は、担当職員、医師、専門職の意見を聞き、介護計画を作成し、家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個々のケアプラン経過記録、生活記録などを記入し職員間で情報を共有する事で状態把握に努めています。また、記録を参考にすると共に、各棟会議で話し合いの場を設け、介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族様の希望に応じて、買物、芥見診療所への受診などの支援をしています。また、気分転換を図る為、外出や散歩等に出掛け柔軟な支援を心掛けています。		

岐阜県 芥見グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入しており、校下内で行われるお神輿の見学、近くのスーパーへ散歩しながらの買物、ホームの近くを散歩し近所の方とのふれあいを心掛けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を継続する人と、法人の医師に変更する利用者がみえます。協力医の場合は、定期的訪問診療があります。かかりつけ医と専門医への受診は、事情に応じて職員が付き添い、適切な医療が受けられるよう支援しています。	契約時に、かかりつけ医について説明し、家族が選択している。ほぼ全員が協力医に変更し、隔週ごとに医師の往診を受けている。専門医への受診は原則家族が同行し、職員も現地に向いて受診結果を共有しながら、連携を密に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に主治医、看護師と連絡を取り合い、適切な医療や看護が受けられるような体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、病院相談員との情報交換を密にし、本人様、家族様が安心していただけるような対応を心掛けています。また、早期退院ができるように医療機関との連携を図り、退院後の対応も指示を受けながら行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、書面で明示し、家族の同意を得ている。重度化に伴って、段階的に話し合い、方針を共有しています。終末期では、家族の意思を尊重し、医療との連携体制を整えています。	重度化や終末期について、事業所の指針を本人・家族に説明し、同意を得ている。利用者の状態変化に伴い、早い段階で家族を含めて、医師、関係者が話し合いを重ねている。終末期は、家族の意思を尊重しながら、医療連携を密に行い、看取り介護を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDが設置してあり、使用方法の勉強会を行っています。急変時、事故発生時は速やかに主治医へ連絡し指示を受けながら対応しています。また、その後も全職員に対応方法を周知徹底しケアをしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練は、火災を想定して、利用者が安全に避難できるよう実施しています。食品や防災備品も整えています。避難場所は、隣接の駐車場と他の指定場所があります。	年2回、近隣の協力を得ながら、防災訓練を実施している。主に火災を想定し、避難場所や連絡網の確認、器具を使った訓練などを実施している。備蓄品を完備し、定期点検を実施している。	火災だけでなく、水害や地震を想定したマニュアルの整備や、職員への対応方法など、地域住民と共に、具体的な取り組みの検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に介護の基本を認識し、利用者への対応を心得、支援に取り組んでいます。様々なケアの場面で、穏やかな言葉かけと柔らかな態度で接し、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう努めています。	職員は、「利用者本位・やさしい気持ち・笑顔」という理念を常に意識し、自尊心を傷つけないよう支援している。入浴時や排泄時の支援の際には、得にプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の変化に気付けるように日頃からコミュニケーションを大切にして状態の把握に努めています。信頼関係を築いていく事で希望や思いを伝えやすい環境づくりを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や心情に合わせた対応を心掛け、その方にあった生活が送れるように支援しています。毎日が楽しく笑顔で過ごして頂けるように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服選びや外出時の洋服選び、お化粧等、自己決定ができるように働きかけています。買い物では、個々に好みの洋服などを選び、楽しみを持って頂きながらその人らしさを大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には旬の野菜を取り入れ、味付けや調理、片付け等は、利用者も手伝っています。食卓には花を飾り、テレビは消しています。職員は利用者様個々のペースに合わせてながら、一緒に食しています。	食事は、旬の野菜をふんだんに取り入れながら、手作りで提供している。職員も同じものを食べ、味、食材の利用方法等で会話を楽しみながら、次の献立作りにつなげている。キッチンから調理中の匂いが拡がり始めると、利用者が自然に集まり、出来ることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は記録に残し、食事、水分摂取が少ない場合は医療機関に連絡して指示を受け対応しています。個々に合わせた量、調理方法等を工夫しながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けをし、できないところは援助しています。また、義歯は毎晩消毒し、歯みがきが困難な方は舌用のスポンジを使用して口腔ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて、声かけと誘導を行い、生活の節目にもトイレへ促しています。その結果、失敗を減らす事ができ、排泄の自立につながっています。夜間は、利用者の状態に合わせたオムツ用品を選択し、できる限り、トイレへ誘導して支援しています。	利用者の排泄パターンを把握し、声かけや誘導で自立に向けて支援している。入居時、紙パンツ使用であった人も、こまめな支援により、トイレで排泄できるようになり、排泄用品の軽減にもつながっている。夜間は安全面に配慮し、個々の状態に合った対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中で運動や散歩など働きかけています。食事のメニューには食物繊維、乳製品等を使用したり水分をなるべく摂って頂けるように声かけをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、何時でも入れるように準備しています。嫌がる人には、日にちを変えたり、介助者の相性にも配慮をしています。また同法人の大浴場にてゆったりと入浴して頂いています。	入浴は、週2回の利用としているが、希望があれば柔軟に対応し、見守りや介助で個浴を楽しめるよう支援している。また、法人のデイサービスの大浴場での入浴は、利用者にとって、気分転換を図れる楽しい時間にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターン、生活習慣を把握し、眠れない方は、安心して頂けるような、声かけをして対応しています。また、様子観察を十分に行い状況に応じ休息できるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員がいつでも薬の内容を確認できるようにしています。誤薬飲み忘れを防ぐ為、常時職員2人にて確認を行っています。状態の変化があった場合は、主治医に報告し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や役割を見つけその人らしい生活が送れるよう支援しています。また、季節の行事等を行い季節感を味わって頂けるような計画をしたり、2か月に1回全員で外出しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常は、ホームの前庭や周辺を散歩しています。また、買物や喫茶店の機会もあります。年間計画では、外食や季節の花見や、莓狩り等に出かけています。個別外出にて行きたい所を聞き外出もしています。	天候や利用者の健康状態に合わせて、敷地内の庭や近隣を散歩している。喫茶店、地域の高齢者サロン、個別外出などの機会を多く計画している。年間行事で花見や莓狩り等に出かけている。個々の外出希望は家族の協力を得て支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方は、ホームで管理しています。現金を所持せず不安を感じる方に対しては家族様と相談し本人様管理をして頂いています。買物では一緒に支払いを行い、安心される現金管理に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様より希望があった場合、家族様に電話をかける援助を行っています。電話の際は、本人様のペースでゆっくりと話をして頂ける空間作りに配慮しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関のスロープには、色とりどりの花の鉢植えを並べています。また、談話室やテーブルにも季節の花を飾り、利用者が季節を感じられるよう工夫しています。壁や飾り棚には、塗り絵やぬいぐるみを飾り、大型テレビのある広い空間で、利用者は、居心地良く過ごしています。	共用の間は広く、車椅子でも自由に往来ができる。庭で育てた季節の花を、玄関、廊下、テーブル等に飾っている。壁には、季節ごとに作る職員と利用者の共同作品や、行事の際の記念写真など、所狭しと飾り、家庭的であたたかい雰囲気のある空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士が近くの席で座れるよう配慮しており、会話やレクリエーションを楽しんだり一緒に洗濯たたみなどされています。また、雑誌や新聞を見たり等、個々のペースで過ごせるような環境作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には個々に模様の異なるのれんを下げ、花や見やすいカレンダーを飾っています。持ち込みのテレビ、収納ケース、衣装掛け等で整理整頓し、ゆとりのある空間を確保しながら、好みの部屋づくりを行っています。	居室の出入り口には、好みの暖簾をかけ、自分の部屋が分かるよう工夫している。テレビや整理筆筒、衣装ケース等、使い慣れた家具を安全に配置している。家族の写真、誕生会や行事の際の写真飾り、穏やかに過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険の無いよう家具の配置を工夫し身体状況に応じて安全に移動ができるように配慮しています。また、居室には暖簾をかけ他の部屋との区別がすぐに見えるようにしてあり、安心して生活が送れるように工夫をしています。		